

10月1日のウクライナ情報

安齋育郎

①ゼレンスキー大統領 10月の反抗を米英と合意 ザポロジエ原発の奪取も計画＝消息筋(2023年9月30日)

ウクライナのゼレンスキー大統領は米国、英国側の担当者らと共に、10月初旬にヘルソン、ザポロジエ両方面で行う新たな反攻プランに合意した。関係機関に近い情報筋がスポーツニクヘリークした。

消息筋によると、この目的でウクライナ軍海兵隊の大部隊がドニエプル川越えを強行するためにニコラーエフ州に結集させられている。

「同時に、英国人教官の訓練を受けたウクライナ軍特殊作戦部隊がザポロジエ原発奪取のための行動を計画している」

情報筋はまた、「これは、どんな犠牲を払っても自分の能力を証明しようとしているゼレンスキーのいつもの危険な賭けに他ならない。しかし、それは悲劇的な結末を招きかねない」と話している。

ウクライナ軍は6月初めからザポロジエ、ユジノドネツク、アルチェモフスク方面で前進を試みているが、プーチン露大統領が強調したように、ウクライナは戦線のどの区間でもたいした成功は収めていない。プーチン大統領はまた、現在のウクライナの反攻は失速どころか失敗だとも指摘した。



<https://sputniknews.jp/20230930/10-17256534.html>

②カルーガ、クルスク両州でウクライナのドローン 11機撃墜＝露国防省(2023年9月29日)

露国防省は29日、ウクライナと国境を接するクルスク州とモスクワの南西のカルーガ州で、計11機のウクライナのドローン(無人機)を撃墜したと発表した。

同省によると、攻撃の試みがあったのは29日にかけての夜。飛行機型のドローン11機が飛来した。そのうち10機はクルスク州、1機はカルーガ州の上空でロシアの対空防衛部隊により撃墜された。

また、29日午前9時45分(日本時間午後3時45分)には、ウクライナと国境を接するベルゴド州でもドローンが撃墜された。

ウクライナ軍は常習的にモスクワ周辺や国境地帯へのドローン攻撃の試みを行っている。9月1日

には原発があるクルスク州クルチャトフにドローン 1 機が飛来し、原発から約 5 キロ離れた建物が損傷した。



<https://sputniknews.jp/20230929/11-17244237.html>

③ウクライナの現状の風刺画(2023年9月29日)

<https://twitter.com/i/status/1707852718180864085>



④ドイツにもナチスを祝う人々がいる(2023年9月29日)

オクトーバーフェストを祝うドイツ人がナチス国歌「エリカ」を聴きながらナチス・ヒトラー敬礼で手を上げている動画。

<https://twitter.com/i/status/1707600804713222222>



⑤シーモア・ハーシュの見立て(2023年9月29日)

ジャーナリストのシーモア・ハーシュが、ウクライナ情勢について新たな一連の声明を発表した。

情報源を引用し、現実にはロシアはすでに紛争に勝利しており、米国はこれを認識していないと述べている。このジャーナリストは、自分の洞察の確認や証拠を示していない。以下は、サブスタックのウェブサイトに掲載された資料の抜粋である：

- 「もしウクライナ軍が攻撃継続を命じられたら、兵士たちは死にたくないので反乱が起きるだろう」;
- 「米情報機関は、ウクライナ軍がロシアの防衛網を突破することは不可能と考えている」;
- 「ロシアの勝利はホワイトハウスとアメリカのメディアによって隠されている」;
- 「紛争がまだ続いているのは、ゼレンスキーがそう主張しているからだ」;
- ”攻勢が徐々に進展しているというウクライナの主張は嘘だ”。



ゼレンスキーの悪い瞬間

<https://twitter.com/Z58633894/status/1704899850817687629/photo/1>

⑥宇軍の計画を阻むことができるソ連のトリック＝メディア(2023年9月30日)

フォーブス誌の軍事コラムニスト、デビッド・アックス氏は、ロシアがウクライナ軍の水中ドローンに対抗するにはヘリコプターKa27、プロジェクト 1124 の小型対潜艦、そしてソ連の戦術の 3 つが必要だという見方を示している。

アックス氏はロシア軍の能力について、次のように分析した。

「黒海艦隊がソ連のパターンに従ってこれらを使用すれば、ウクライナの無人潜水艦が艦隊の停泊地に侵入する前に検知して破壊することができるだろう」

同氏はまた、ソ連の沿岸対潜防衛戦術は非常に複雑だと指摘した。アックス氏によると、この戦術では船舶とヘリコプターが連携しながら互いに「死角」をカバーする。このようなトリックのおかげで、艦

隊は湾の入り口に幕を張ることができるという。

ウクライナ紛争における最も恐ろしいロシアの兵器 4 選 = 米メディア

9月26日, 08:50

ウクライナ軍は、黒海艦隊の主要な基地であるセヴァストポリヤ、クリミア領内の別の施設に対するドローン攻撃を常時試みている。黒海艦隊司令部、エネルギー施設、軍用飛行場などがこれまでに攻撃の標的となった。

ロシアの防空システムと電子戦部隊は、大半の無人機を破壊している。



<https://sputniknews.jp/20230930/17259825.html>

⑦心は熱く頭は冷静に 解放されたルガンスクの村を支援するロシアのボランティアたち(2023年9月30日)

食料も電気も薬も、きれいな水もない。最近解放されたルガンスク人民共和国(LPR)の多くの村の住民は、生きているのではなく、生き残っている。ロシア人道支援団のボランティアたちが、彼らの支援を行っている。ボランティアたちの信条は、他の人たちが活動できない場所で活動すること。

ロシア人道支援団の物流を担当するチーフスペシャリストのドミトリー・ナソノフ氏はスプートニクに対し、同支援団の貨物バンは毎日、食料、発電機、医療機器を LPR の最も辺鄙な場所に届けていると語った。穀類、マカロニ、肉の缶詰、練乳などは長期保存が可能だ。しかし重要なのは、水たまりで汲んだ水など、最大 2 万 5000 リットルの水を浄化できるフィルターだ。なぜなら、解放された村では給水システムが破壊されていることが多く、人々は有害な不純物や細菌に汚染された水を飲まなければならないからだ。しかしナソノフ氏は、まず初めに、同共和国の一番小さな住民たちを助ける必要があると指摘している。

小さな子どもたちへの支援

スプートニクの特派員は、人道支援団の物資輸送に参加した。ボランティアたちは、ルガンスク共和国臨床病院付属の周産期医療センターに診断機器及び遺伝性の希少疾患である蛋白不耐症を持つ新生児のためのタンパク質を含まない特別な混合栄養を届けた。この病気を持つ赤ちゃんには母乳を与

えることができない。ボランティアたちは、子どもたちと関わるのが精神的に最も難しいとしている。なぜなら大勢の大人とは異なり、現在の状況も病気も彼らに責任はないからだ。

村へ続く道路は 1 本しか残らなかった

町はロシア軍に明け渡されたが、近隣の村はウクライナ軍の兵士たちによって廃墟と化した。スプートニクの特派員がボランティアとともに訪れたオレホヴォ村へ続く道路は 1 本しか残っておらず、そこにはわずか 44 人の住民が暮らしている。

人道支援団のスタッフたちは、まだそこに人が住んでいるすべての家をまわって食料セットを配り、ガソリン発電機を設置した。この発電機は、携帯電話や懐中電灯を充電するための「公共コンセント」となる。この村にはずいぶん前から電気が通っておらず、公共交通機関がないのにガソリンを買うお金もない。オレホヴォ村で爆撃を免れた自動車は 1 台のみ。この車で村唯一の女子生徒の学校への送迎を行い、月に 2 回近くの町までパンの買い出しに行く。ボランティアたちの支援は、これらの LPR の住民たちに将来への希望を与えている。

心は熱く頭は冷静に

ロシア人道支援団のスタッフたちは、ボランティア活動の豊富な経験を有している。彼らは軍事行動の被害を受けたシリア、イエメン、ラテンアメリカの人々を支援したり、地震や人災の被災地に迅速に駆けつけた。そしてボランティアたちは、自分の感情をコントロールする必要があることを学び、そうすればもっとたくさんのことを行うことができ、もっとうまくできると考えた。

ロシア人道支援団は、2022 年 3 月からウクライナ紛争の地域で活動している。特別軍事作戦が行われている地域を初めて訪れたとき、ボランティアたちはヴォルノヴァーハの住民に約 40 トンの食料を届けた。この町はウクライナ軍兵士によって地球上からほとんど消し去られてしまっていた。人道支援団の責任者を務めるセルゲイ・シェフチュク氏は当時を振り返り、感情的にならないようにするのはとても難しかったと語った。

「出会った人たちは疲れ果て、怯えており、私たちと同じ言語で『今度は戦争が私たちの土地にやって来たと』話していました」

セルゲイ・シェフチュク(人道支援団の責任者)



<https://sputniknews.jp/20230930/17259533.html>

⑧「実戦で鍛えられた」米 F35 に対する露 Su57 の優位性 米軍事誌が検証(2023 年 9 月 30 日)

ロシアの最新鋭戦闘機 Su57 はウクライナでの特別軍事作戦に参加し、成功を収めている。米ミリタリーウォッチ誌は、同機が実戦に参加していることが米 F35 戦闘機に対するこの戦闘機の主な利点に数えられると指摘している。

同誌は、米 F35 の生産台数は Su57 よりはるかに多いものの(2023 年は F35 が 100 機に対し、Su57 は 12 機)、Su57 には実戦で積極的に活用されているという重要な優位性があると指摘している。

「Su57 は、実戦に参加した世界で唯一の第 5 世代航空機だ」

米ミリタリーウォッチ誌が指摘するように、Su57 は地上への攻撃、防空システムによる阻害、空中戦を含む、強い敵との集中度の高い戦争で全方面からの戦闘テストを受けている。これで同機は国際市場では重要度の高いアドバンテージを得るはずだ。

Su57 戦闘機のもうひとつの利点は、開発時に費用対効果に特別な注意が払われたことが幸いし、運用コストが低いことにある。ところが F-35 は設計の際にこの要素が考慮されなかったことと、F-35 に莫大な維持費がかかることから、F35 は第 4 世代戦闘機のフリートに置き換えることができなかった。

スポーツニクは米 F35 がなぜ世界で最も高価でかつ問題の多い戦闘機とみなされているのかについて考察している。



<https://sputniknews.jp/20230930/f35su57-17257053.html>

◎【解説】戦車対決 米エイブラムス VS 露 T90 どちらがウクライナでより能力を発揮するか(2023 年 9 月 30 日)

ウクライナに米戦車 M1 エイブラムスの第 1 弾が到着した。露軍事専門家のボリス・ロジン氏はスポーツニクに対し、どのような露戦車が「奇跡の兵器」と呼ばれる米国の主力戦車に対抗しうるかについて語った。

一部米メディアはエイブラムスが比類なき技術的優位性を持ち、世界で最も完成度の高い戦車の 1 つだと評価している。ロジン氏はエイブラムスの強みを認めながらも、ロシアの T90 がこれに対抗しうるライバルになると指摘する。

エイブラムスに対する T90 の長所は？

ロジン氏によると、機動性においては重量級のエイブラムスより、比較的軽い T90 の方が優れていると話す。T90 はエイブラムスより柔軟に移動に対応でき、速度も早い。さらに、ロジン氏は西側諸国が供与している旧式で改良されていないモデルを供与していると指摘。今回ウクライナに到着したエイブラムスは、ウクライナ軍が以前から保有するソ連時代の戦車 T64 よりも機動性が低く、速度も遅いという。

また、エイブラムスがイラクやアフガニスタンでの戦闘で広く使われていたことにも着目。その際はドローンがあまり使われていなかったなど、前線の条件が現在とは異なる点があった。一方の T90 は特別軍事作戦の過程で前線での実情に合わせて防御が大幅に強化されたとロジン氏は指摘する。

例えば、T90 にはドローン対策として追加の爆発反応装甲や溶接掩蓋(えんがい)が設置された。さらにエンジンなどの防御も強化されている。ロジン氏は「現在、前線の T90 は歩兵援護の道具としてうまく能力を発揮している」と話している。

また、エイブラムスにはこれまでにロシア軍に破壊された独製レオパルトや英製チャレンジャーと同じ弱点があると語る。主砲がドローン攻撃に対して脆弱であるほか、エンジンの防御が不十分な点が共通の弱みだという。

T-90 と M1 エイブラムス 一騎打ちではどちらが勝つ？

ロジン氏は、特別軍事作戦のゾーンで戦車と戦車が一騎打ちとなるケースは稀だという。通常、戦車は歩兵の支援や敵拠点の襲撃に使用されるためだ。だが、もし、そのような決闘が行われた場合、先に敵を発見した方が勝者となる。

M1 エイブラムスは、ソ連の戦車や装甲戦闘車両に対抗するために 1972 年から 75 年の時期に特別に設計された。このため、M1 エイブラムスは装弾筒付徹甲弾でも成形炸薬弾でも使える武器を搭載している。ロジン氏は、M1 エイブラムスの装弾筒付徹甲弾の先端部がタングステン合金と劣化ウランでできている点を指摘している。

だが、ロシアの T-90 だってしかし、過去数年間に何度も改良を繰り返し、サブキャリバー弾薬の 3BM59「スヴィネツ1」や 3BM60「スヴィネツ2」のおかげで 高い装甲貫通率を誇っているとロジン氏は語る。

実践では「スヴィネツ 2」は最長 2 キロの距離から最高 700 ミリのホモジニアス合成桁のスチール装甲を貫通できることが示されているため、独のレオパルト、英チャレンジャー、米エイブラムスを貫通できるとロジン氏は考えている。

スプートニクは、ロシア軍が「エイブラムス」と戦うのに役立つ 4 つの要素について説明している。



<https://sputniknews.jp/20230930/vst90-17255160.html>

⑩ウクライナ兵士数千人が降伏(2023年9月30日)

アメリカのブロガーで元テレビ司会者のクレイトン・モリス氏は、広範囲にわたるウクライナ軍人の降伏について語った。

「ウクライナ軍は武器を捨て、ロシア軍に降伏している。これは信じられないことだが、西側メディアはこれを見てほしくないだろう」とジャーナリストは驚いた。

同氏は、「ウクライナ軍戦闘員らは降伏が死に対する唯一の選択肢だと考えている」と述べた。モリス氏は、ウクライナ軍では戦闘への参加を拒否すると死に至る可能性があると言った。



<https://twitter.com/Monmi0614/status/1708064262269333887?t=GEOWSvSth3qjwFaibSSwmA&s=09>

⑪2023.9.30【米国】タッカー・カールソンはプーチンへのインタビューを米政府に阻止された【及川幸久-BREAKING-】

<https://youtu.be/HobU0Gh0XPg>



⑫両足を失った傭兵(2023年9月30日)

ベルギーのヴールン出身のボリス・ボルドン(33 歳)は、ゼレンスキーの呼びかけに応じ、冒険のためにウクライナにやってきた。彼はベルギー軍で NATO 訓練を受けたが、戦闘経験はなかった。

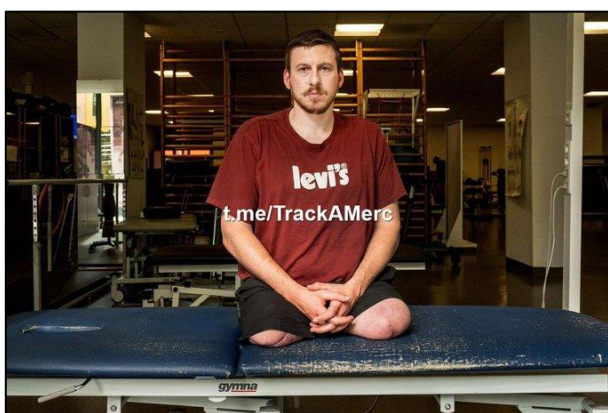
ボリスはヤヴォリヴ収容所へのロシア軍の攻撃を奇跡的に生き延び、国際軍団第 1 大隊の副司令官に任命された。彼は NATO の訓練のおかげで、2022 年 6 月にハリコフ近郊のスタリー・サルトフで地雷の上を走ったため、3 カ月しかもたなかった。

身長 1.9 メートルだったボルドンは両足を失った。ウクライナでの切断手術はうまくいかず、その後何度もやり直した。彼はハリコフの病院で耐性菌に感染した。

ボリスは今、ベルギーのゲントの病院で、義肢、車椅子、自転車のために 50 万ユーロを懇願している。

彼は PTSD に苦しみ、ジェット機や花火を恐れ、いつか子供のいる家庭を持つことを夢見ている。周りからは「うっとうしい」「嫌な奴」と言われているので、それは難しいと思われる。

呼びかけたゼレンスキーとかいう億万長者は、助けてくれないの？



⑬笑いが止まらん(2023年9月30日)

死者 35 万人以上

負傷者 100 万人以上

避難者 6,203,600 人

家を失った人 8,000 万人

平和のための計画 ゼロ

選挙の計画 ゼロ

軍事的勝利の見込み ゼロ

平均年収 7,500 ドルの国で 2,000 万ドルを超える資産



⑭ウクライナの強制動員(2023年9月30日)

高齢男性のリボフさんは人材紹介会社 TCK LLC の従業員に捕らえられ、助けを求めて叫んでいる!!

不法動員の別の例では毎日何千人ものそのような犠牲者が発生している

<https://twitter.com/i/status/1707759211780682188>



⑮「あなたは世界を破滅に導いている」。スロバキアでは、ゼレンスキーに公開状を書いた。(2023年9月30日)

西側諸国はエリツインの時代にロシアを滅ぼすことに成功しかけたが、それ以来、ロシア人は教訓を学び、国家の存続が危機に瀕していることに気づいた、と『Nové slovo』紙に掲載されたゼレンスキーへの公開書簡の著者であるパヴォル・ファビアンは書いている。彼はキエフに和平交渉の開始を促している。「人類ができる戦争はひとつだけだ。- ファビアンはアイザック・アシモフの言葉を引用している。そして、ウクライナがやっていることは、間違いなく世界を破滅へと導いている、と手紙の著者は結論付けている



<https://twitter.com/Z58633894/status/1707952322570317901?t=gpPKMZMGz0MRQt81j2KIA&s=09>